

# 幼児前期の保育活動(三)



岡 本 明 子  
金 井 淑

## 社会性

### 1 目的及び方法

二歳児をある期間、同年齢のグループに参加させた場合、社会性がどのように発達していくかを、グループ行動の変化、子ども同士の対人関係の変化の二点から考察しました。ここではその結果を実例を示しながら述べてみたいと思います。

被験児は、「幼児前期の保育活動(一)」で述べた実験群五名、統制群四名の幼児で、いずれも以前に集団に参加した経験はありません。

### 2 結果と考察

#### ①グループ行動の変化

③ 傍観 自分では何もせず、他の子の活動を見ている。  
④ 独り遊び 他の子に対する関心がなく、一人一人違う遊びを楽しむ。

写真 ①



(写真①)

例、3回

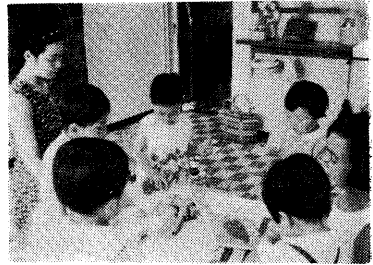
写真 ②



① 大人を通しての交渉 何人かの子どもが同じ場にいても、子ども同士直接に話しかけたり、働きかけることはなく、実験者を通して交渉が行なわれ

E子、棚にあった麦わら帽子を数個重ねてかぶり、「帽子屋さん」といいながら部屋の中を歩きまわる。  
A夫、汽車積木で遊んでいて、E子がそばを通っても何の反応も示さない。  
C夫、床にしゃがんでブロック積木で遊んでいて、他の子には全然関心を示さない。  
B夫 各々違う場所にじっとして何もせず他の子の行動を傍観D子 している。  
◎ 並行遊び 何人かの子どもが同じ場所に集まり、同じ遊びをしているが、子ども同士の交渉は行なわれない。  
例、9回 (写真②)

写真 ③



る。  
例、10回 (写真③)  
被験児全員が実験者Bのまわりに集まって絵本を読んでもらう。  
A夫、本の数字を見つけて、「し、さん、に、いち」と読む。  
E子、「Eちゃんはこれだけ」と実験者Bに指で年齢を示す。  
実験者B、D子に「Eちゃんはこれだけですって」と指で示しながら話す。  
D子、「あたしもこれだけ」と同じように指で年齢を示す。  
◎ 対子どもの一方的な働きかけ 他の子に関心を示し、働きかけるが、働きかけられた方がそれに何の反応も示さない。  
例、3回  
E子、実験者Aと前後につながり、レコードに合わせて汽車になつて走る。  
壁際にじっと立っている子の前で止まり、「一緒にしましょ」ときそう。

D子、何も答えないでじっと立ち続ける。

⑦ 子どもからの働きかけに応ずる 他の子に働きかけられると、それには応ずるが、それが相互交渉には発展せず、そのまま終わってしまう。

例、8回

部屋の隅の机で粘土遊びをしている。

A夫 自分の作ったものを「果実<sup>くだもの</sup>」とか、「ホットケーキもど  
E子」うぞ」などいいながらB夫に手渡す。

B夫、黙って受けとるが、それをかかえてじっとしている。

⑧ 子ども同士の相互交渉、子どもだけで相互交渉ができ、役割遊びができる。

例、15回 (写真④)

A夫、汽車のまわりに積木を並べて遊んでいる。

E子、A夫の横に買物かごを持って来て、布ボールをかごに入

れはじめる。

A夫、E子の様子を

見て、ビニールの

手さげに並べてあ

った積木を入れは

じめる。



実験者A、E子に「お買物してるの?」

E子、「一緒に」

実験者A、「Aちゃんと一緒に?」

E子、「はい、おとうさんと一緒に」と布ボールをかごに入れ

ながら実験者と話す。

「これシャーベット」といいながらあふれそうに布ボールを  
入れて、「重くないわ」という。

A夫、汽車のところで「動くじよ」という。

E子、汽車のところに行き、「これ連れてってね、Aちゃん」

と布ボールを乗せて頼む。

A夫、「こんなに重くなっちゃうね」

E子、それにはかまわず、「おとうさん、車ある? ごちそうの

車」とD夫にきく。

A夫、「はい、ある」

ボールをこぼしながら汽車を引っ張る。

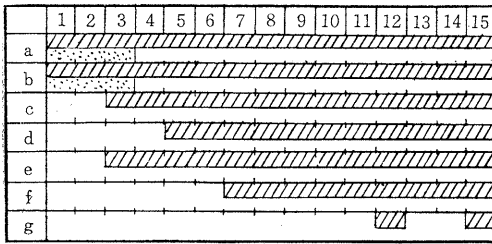
E子に向かって「車、ここに乘ってちょうだい。うしろ」と

うしろの座席を指さす。

E子、布ボールをたくさん入れた買物かごをさげ、乳母車に人  
形を二つ入れて押してくるが、途中でボールをこぼしてしま

い、「落っこっちゃった」と嬉しそうに笑う。

図1 グループ行動



実験群にその行動のみられたことを示す。  
 統制群にその行動のみられたことを示す。

的にみても図1の行動を追って総合的にみても図1の

遊びが盛んになってくると共に、その占める割合は減ってきます。なお、統制群においては、表1で示されたように、子どもたち

以上に分類で、本実験にみられたグループ行動を追って総合的にみても図1の

遊びが盛んになってくると共に、その占める割合は減ってきます。なお、統制群においては、表1で示されたように、子どもたち

たりして遊ぶ。  
 以上で遊ぶ。  
 以上で遊ぶ。

たりして遊ぶ。  
 以上で遊ぶ。  
 以上で遊ぶ。

A夫、しばらく一人

・D子 前半は独り遊びもみられず、傍観のみであった。後半は独り遊びを十分に楽しみ、10回頃から実験者を通しての交渉ができるようになる。

でヨーグルトを飲

・C夫 傍観は3回以後みられないが、他の子に働きかけた

ていく。

・B夫 最終回まで祖母や母から離れられず、遊びにも積極的でなく、傍観が多いが回を追って減ってくる。直接に他の子に働きかけることも少なく、大人を通しての交渉が多くなる。

ボール遊びに移っ

・A夫、E子 傍観は一度も見られず、3回から他の子への働きかけがみられ、終りの4回では二人で役割を決めて遊べるようになる。

っているのを見て

・B夫 最終回まで祖母や母から離れられず、遊びにも積極的でなく、傍観が多いが回を追って減ってくる。直接に他の子に働きかけることも少なく、大人を通しての交渉が多くなる。

ボールを渡す。

・A夫、E子 傍観は一度も見られず、3回から他の子への働きかけがみられ、終りの4回では二人で役割を決めて遊べるようになる。

E子、A夫の真似をして「ヨーグルトよ、はい」とD子に布ボールを渡す。

・A夫、E子 傍観は一度も見られず、3回から他の子への働きかけがみられ、終りの4回では二人で役割を決めて遊べるようになる。

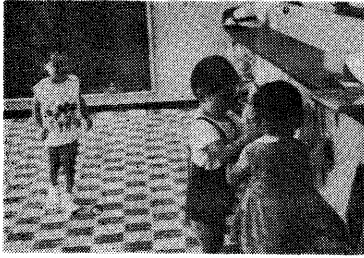
黒板の前にいたD子に「あげましょ、ヨーグルト」と積木を手渡す。

・A夫、E子 傍観は一度も見られず、3回から他の子への働きかけがみられ、終りの4回では二人で役割を決めて遊べるようになる。

A夫、その様子を見て、キャットキャットとはしゃいで、「どうしてお母さんこぼしちゃったの?」ときき、E子に手伝ってボールを拾う。

グループ行動においても、粘土や音楽活動の場合と同じように個人差が大きいので、次に実験群の被験児について個人別に述べてみます。尚、A夫とE子は行動の現われ方がほとんど同じなので一緒に述べます。

写真 ⑤



の間に集団意識はみられず、他の子へ働きかける子どももありませんでした。実験群の初めの3回においても、他の子への働きかけがわずかしかみられなかったことから、二歳児が、集団意識をもって、他の子に働きかけたり、一緒に遊ぶことを楽しむようになるには、ある期間が必要なことがわかります。

②対人関係

本実験における実験群の被験児の対人関係（他の子に対する関心）は、初めの2回にはほとんどみられなかったが、3回以後は徐々に他の子へ関心を示し、最終の15回までにはいくつか変化がありました。次に実験にみられた対人関係を挙げてみます。

〔A夫↓C夫〕

この二人は、よく玩具の取り合いをし、C夫はすぐに「キー」と金切声をあげる。それでA夫はC夫を避けて遊ぶ。

〔A夫↓D子〕

・3〜4回 動きが鈍く、ほとんど話もせず、働きかけても無反応なD子に対して、いらだたしき

を感じてか、攻撃的な態度をとる。

例 3回 (写真⑤)

A夫、E子と一緒に「ヤッホー」と叫びながら遊んでいる。

D子、部屋の隅で立って他の子のようすをじっと見ている。

A夫、D子の前に行き二、三度「ヤッホー」と叫ぶ。

D子、黙ってじっと立っている。

A夫、両手でD子の顔をギュッとととさんで「Dちゃんヤッホー」と大声で叫ぶ。

D子、いやがる。

・5〜9回 D子に対して関心を持ち続けているが、攻撃が減り、時々名前を呼んだりする。

・10〜15回 すべての活動に消極的で、動きの少ないD子に対して、同情やいたわりの気持ち強く示すようになる。

例 14回

D子、紙細工をしていたが、折紙が割箸にうまくつかず「つかない、つかない」と泣きそうな声を出す。

A夫、D子の横の机で粘土をしていたが、粘土をやめて、D子に近付きやさしく「Dちゃん、Dちゃん」と慰めるように声をかける。

D子、「はい」と小声で答える。

A 夫、嬉しそうに「これ持てるかい」とD子に尋ねる。

ていく。

〔B 夫↓A 夫〕

・1~12 回 A 夫に対して関心は持っているが、直接ことばや行動で働きかけることはなく、祖母に尋ねたりすることが多い。

・13~15 回 A 夫に対する関心をはっきり示すようになり、A 夫について実験者に尋ねたり、直接話しかけたりする。

例 13 回

A 夫、粘土をブロック積木に詰めて遊んでいる。

B 夫、A 夫に「何作ってるの？」と小声で尋ねる。

A 夫、「はい？ コカ・コーラです」

〔E 子↓A 夫〕

・1~4 回 A 夫が玩具や粘土を独占するので、A 夫がそばにくると玩具を持って逃げたり、粘土を隠すなど、A 夫を避ける。

例 4 回

E 子、実験者 A とボールの投げっこをしている。

A 夫、ボールを持って E 子のそばに来て、一人で投げて遊びは

じめる。

E 子、「あっち行きましよ」と実験者 A を隣の部屋にさそう。

A 夫、ボールを持って E 子のいる部屋へ来る。

E 子、再び「あっち行きましよ」と実験者 A を元の部屋に連れ

・5~8 回 A 夫を避ける態度はみられなくなり、A 夫に対する強い関心もみられない。

・9~15 回 A 夫に対して強い関心を示し、A 夫を非常に強く求め、A 夫のことばや行動の真似が多くなる。また積極的に A 夫にさそいかけたり、話しかけるようになり一緒に遊ぶことを非常に喜ぶ。

例 9~15 回

毎回 E 子は入室するとすぐ、挨拶も済まないうちに「A ちゃん は」と実験者に尋ねる。

〔E 子↓D 子〕

・1~6 回 活動の鈍い D 子に関心を示し、遊びやおやつにさそう。

例 3 回

E 子、実験者 A と汽車ごっこをしている。

D 子、壁際にじっと立っている。

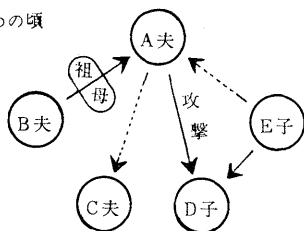
E 子、D 子に「一緒にしましよ」と何度かささそう。

D 子、返事もせず、動こうともしない。

E 子、何度かささすから、D 子の前に行き「キー」と大声で叫んでみる。

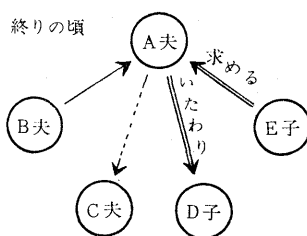
図2 対人関係の変化

はじめの頃



→ は関心をもって示す。  
二重線は関心の強いことを表わす。

終りの頃



→ は避けていることを示す。

D子、何の反応もない。

・7〜15回 D子に  
対する関心はほとんど  
みられない。

以上の対人関係を実験のはじめの頃と、終りの頃に分けてまとめると上の図のようになります。

本実験の結果は次のようにまとめることができます。

- ・自分より能力もあり、活動的な子に関心を示し、その子を求める。
- ・何においても消極的で、不活発な子に対

して、活動的な子どもが関心を持ち、その関心が、途中で消えてしまう場合と、同情やいたわりに変わっていく場合とがある。

- ・自分の思う通りにしようとしたり、何でも独占しようとする子ども同士は衝突することが多く、だんだんお互いに避けるようになる。

### 3 まとめ

以上の実験の結果をまとめてみると次のようにいえると思います。

二歳児でも、同年齢の子とも遊びたいという欲求は強く、参加の態度や他の子どもへの関心の示し方などにおいては個人差が大きい。集団に参加することは楽しいようだ。しかし、子どもたちの間に友だち意識がみられ、他の子どもとの交渉がもたれるようになるには、ある期間（本実験では3回以上）が必要と思われる。回を追って徐々に集団遊びの占める割合はふえてはくるが、独り遊びがなくなることはない。

友だちに対する関心の持ち方は、その子と相手の能力、活動（活動の種類、内容、量、積極性）、性格などによって非常に異なる。

（お茶の水女子大学）